2025年度 経済学部外国人留学生入学試験 小論文 試 験 問 題

(NO. /)

次の文章を読んで、質問に答えなさい。

外国語を学ぶことの効用は、新しい言語を習得することによって、新しい「メガネ」、新しい物の見方、新しい意味世界を獲得できることだろう。私たちの認識や感性は言語によって知らぬ間に構築されている。「人格」さえも言語に大きく規定されているかもしれない。例えば、私の両親は若い頃に広島から出てきて東京に住んだ人間である。家庭で両親は「標準語」で話す。はじめて両親の田舎(私にとっては祖父・祖母の家)に行き、両親が突然「広島弁」を話し出した時の衝撃は忘れられない。両親がまったく「別人」になったかのように感じたのだ。そして事実、「標準語」で話すときと「広島弁」で話すときでは、両親の「人格」に何かの変化が起きているのだ。言語を替えることは、別の私へと「変身」することでもある。それほど言語は大きな世界構築力を持つのだ。言語を「替える」ことは発想や行動を「変える」有効な手段である。①言語を替えれば思考が変わる。メッセージは同じ内容でも言語を替えて表現すると印象が変わったり、内容が違ったものになったりすることは、通訳や翻訳をすれば誰もが経験することである。

そのことは外国語を学ぶ大きな動機の一つだろう。外国語を学ぶことで違った世界、 文化に触れたい、違った人々と交流したいという願いには、自分を変えたいという変身 願望が、多少あるはずだ。言語を新しく獲得し直すことで、新たな世界が与えられる。 外国語を学び、新しい見方を手に入れることで、新しい「私」に変身する可能性が与え られるのである。

だが、言語というメガネによって視野が与えられるということは、世界の見え方がメガネに左右されるということでもあり、そのメガネが見せてくれるもの以外は見えないということでもある。②世界を見る可能性を与えると同時に制限を課すメディアでもある舊語。そして、この可能性を追求するだけでは、言語のもう一つの側面、すなわち世界拘束力から自由になることはできない。なぜなら新しい外国語における新しい自己は、その言語によって「与えられた」ものでしかないからだ。新しい言語に取り込まれることで、言語システムによる変身が体制への動員や飼い馴らしにすぎなくなるおそれもある。特に強力な言語システムの選択は同化吸収になりやすい。その場合、自己の可能性の拡張を求めた結果が、そのシステムへの依存という、むしろ可能性の縮減・制限へと逆転する。ある拘束状態から逃れようとして、別の強力な拘束状態に陥ることは、人間社会にはよくあることである。もちろん、自己の可能性をより拡張してくれるシステムの拘束を選択する方が「賢い」という考え方もあるだろう。

しかし、どれほど複数の言語間を横断しようと、この生き方では、結局のところ、一つのシステムに同化することによって自己確立を達成しており、本当に複数の言語の間で生きていることにはならない。その場合、外国語の複数性はただ一つの言語に到着するための一時的な通路にすぎず、まるでカタログで商品を選ぶときのような選択肢の一つにすぎない。そのような選択=選別のあり方は実際のショッピングでよくあるように、どれほど消費者の自由に任されているように見えても、実はある特定の方向に、すなわち現状において力をもつ流れへと誘導されている。その誘導自体が持つ権力性や暴力性、さらには、はじめから何が選択肢として提供されるか(そもそも、

2025年度 経済学部外国人留学生入学試験 小論文 試 験 問 題

(NO. 2)

カタログにどういう商品が掲載・登録されるか)または提供されないのかについての 決定権といった問題が、問われずに放置されているのである。

外国語を学ぶことに資格や地位といった「実用」や「利益」を超える「意味」があるとすれば、言語の権力構造を、具体的な政治・経済・社会・文化と関連づけて客観化し、獲得した言語を用いてそこに新しい視点を投げることにある。そのために複数の言語を学び、言語を外部から見る視点を学んだうえで、自分の母語も含めた②言語を複数化することが「外国語」を学ぶ大きな意味なのである。

出典:藤本一勇(2009)『ヒューマニティーズ 外国語学』岩波書店より一部改題

問1: $\underline{0}$ **言語を替えれば思考が変わる**とあるが、具体的にどのようなことを言っているか。 例を挙げながら $\underline{150}$ 字程度で</u>説明してください。(20)

問2:<u>®世界を見る可能性を与えると同時に制限を課すメディアでもある宮語</u>とあるが、 どのようなことか。例を挙げながら<u>150字程度</u>で説明してください。(30)

問3:<u>②言語を複数化することが「外国語」を学ぶ大きな意味なのである</u>とあるが、なぜ そう言えるのか。<u>200字程度</u>で自由に意見を述べてください。(50)

2025 年度 商学部 外国人留学生入学試験【A 方式】

小論文 問題用紙 (NO. 1)

次の文章を読み、設問に解答しなさい(解答はすべて解答用紙に記入すること)。

社説 SNSと子ども 有害情報から守らねば

オーストラリア議会が、16 歳未満がSNSを利用できないように事業各社に対策を義務付ける法案を可決した。保護者の意向にかかわらず全面禁止する法律が国家レベルで成立するのは初めて。

SNS規制は「言論の自由」に触れる恐れがある難題だが、有害な情報から子どもの心身を守るには野放図な利用を放置せず、対策を講じるべきは当然だ。

新法は違反事業者に最大50億円相当の罰金を科す厳しい内容だ。

背景には、子どもたちがSNSから離れられず、睡眠障害やうつ病を患ったり、投稿内容を信じて拒食や自傷行為に走ったりするなど、心身への悪影響がある。児童ポルノなどの犯罪の温床になっているとの指摘もある。

未成年者のSNS利用制限は世界的な流れでもある。米南部フロリダ州は14歳未満のアカウント取得を禁じる法律を成立させるなど一部の州が未成年の利用制限を法制化した。フランスは15歳未満の利用に保護者の同意を義務付けるなど欧州各国も規制を強めている。日本政府も検討を開始した。

事業者側は自主規制に取り組んでいると強調するが不十分だ。

若者に人気のインスタグラムやティックトック、日本で人気のX(旧ツイッター)など、多くのSNSは13歳未満がアカウントを取得できないようにしているが、虚偽の生年月日で登録は可能だ。

年齢をどう確認するかを含め、より有効な対策を講じるために知恵を絞らねばならない。

SNSの悪影響を受けるのは子どもたちだけに限らない。

SNS上で自分と似た意見や思想ばかりが行き交う「エコーチェンバー」や、関心のある情報が優先的に表示され、関心のない情報から隔離される「フィルターバブル」はよく知られた現象だ。

多くの人々が異なる意見に耳を傾けず、寛容さを失う一因ともされ、各国で広がる政治的な分断や対立とも無関係ではない。

虚偽情報の拡散力は、それを打ち消そうとするファクトチェックの数倍強いとの研究結果も ある。虚偽情報は選挙にも影響し始め、民主主義を揺さぶっている。

こうした状況を放置すれば、規制はやがて利用者全体に及びかねない。SNSの運営者も利用者も自らをより厳しく律し、「言論の自由」を守り続ける方法を考えなければならない。

(社説 SNSと子ども 有害情報から守らねば 東京新聞2024年12月6日)

- 問 次の点を全て含め、700字以上800字以内の小論文を書きなさい。
 - ・ 筆者の考えをまとめた上で、あなたの意見とその根拠を述べる
 - 具体的な事例、自国との比較、あなた独自の提案を含める

2025 年度 総合政策学部 外国人留学生入学試験

小論文課題

問題 以下の問題文のうち一つを選び、1000字程度で解答してください。

1. 現在の日本では高齢化が進み、65 歳以上が総人口の 29%を占める社会となっています。他方で、子供(15 歳未満)の人口は総人口の 11.5%まで減少しており、授業料収入を主とする日本の多くの大学は困難に直面しています。このような状況を踏まえ、以下の問いについて、具体的な事例を挙げながら、あなたの考えを論じてください:

問:日本の大学が直面している困難を打開するために、どのような解決策が必要となるでしょうか。実行可能性に留意したうえで、あなた自身の考えを具体的に述べてください。

2. 近年、AI による翻訳技術の進歩や SNS の普及により、異文化間のコミュニケーションがますます容易になっています。一方で、各地域固有の言語や文化的実践が失われていくことへの懸念も指摘されています。このような状況を踏まえ、以下の問いについて、具体的な事例を挙げながら、あなたの考えを論じなさい:

問:グローバル化と AI 技術の進展は、文化的アイデンティティの維持・発展にどのような影響を与えると考えられるか。また、私たちはその影響にどのように向き合うべきか。

2025 年度 国際経営学部 外国人留学生入学試験【A 方式】

外国語(英語) 問題用紙 (NO. 1)

(1) If the company	had t	the warning sign	s earlier, they might ha	we avoided the financial crisis.
(A) ignored,	(B) recognized,	(C) clarified	l, (D) postponed	
(2) The manager v		the team's abil	ity to deliver results,	their previous
(A) considering,	(B) assuming	g, (C) despit	e, (D) regarding	
sustainability in	itiatives.		r overseeing the impl	ementation of the company's
(A) for, (B	s) on, (C) wi	th, (D) of		
(4) Residents office.	by the typ	shoon should app	oly for government assi	istance through their local city
(A) effect,	(B) effected,	(C) affect,	(D) affected	
(5) Sales usually	aft	ter the holiday se	eason.	
(A) drop off,	(B) wind up,	(C) close do	wn, (D) fall down	n
(6) After graduating (A) on, (B	g, she got a job) in, (C) at,			
(7) TI 1 (1 ' C .1	337 11		
(7) I nank you for a	(B) get back,		(D) converse	
(8) Politics in any o (A) specialty,			ble, whe	n making important decisions.
(9) The CEO made	several bad decis	ions	_, the company's stoc	k price has declined.
(A) Consequen	tly, (B) As the	e result, (C)	With alacrity, (D)	Incidentally
(10) Many people the to new fields of		nnology will elimi	nate jobs. On the	, innovation often leads
(A) opposite,		(C) contrary	, (D) downside	
Read the following	article and answe	er the questions	below.	
The history	of Nicomornion Ci	ion I anoma o io	a faccinating around	lo of hour o longuage con deve
aturally in a comn		ign Language is	a fascinating example	le of how a language can deve
=	=	riduals in Nicar	agua had limited (1)	for communicati
				le home signs, gestures, and
commu andardized and v				. These home signs were
andarandea and V	arioa iroini nouse	TIDIA 10 HOUSEII(114.	

Nicaragua, which came to power in 1979, (3) educational reforms, including establishing					
special education programs for deaf children. In 1977, the first school for deaf children was established					
in the capital, Managua.					
A remarkable process began when these children, who had been using their own home signs, were					
brought together in the same environment. Instead of (4) using their home signs, the childre					
began developing a new form of communication. As they interacted, a more complex and structured form					
of signing (5) This was the beginning of what would become Nicaraguan Sign Language.					
As more and more deaf children entered the school, the sign language continued to evolve. The					
first generation of students developed a basic communication system, but the younger children, who					
joined the school in the early 1980s, transformed this into a fully-fledged language. These younger children were not just imitating the older ones but expanding the system, adding					
grammatical structures, and creating more (6) ways to express concepts. Linguists who					
studied this phenomenon, like Judy Kegl, noticed that the younger signers were responsible for much of					
the language's complexity.					
Nicaraguan Sign Language attracted international attention in the 1990s because it provided					
linguists with a unique opportunity to observe the birth and (7) of a new language. It became					
a significant case study in understanding how languages develop and evolve.					
Researchers, including Judy Kegl and Ann Senghas, studied ISN (8) to understand					
how linguistic structures start and how children can create and develop a language from relatively limited					
input. Their studies showed that the youngest children were driving the development of ISN, adding					
elements like (9) word order and complex grammar.					
Today, ISN is a fully developed sign language with its own grammar, distinct from other sign					
languages like American Sign Language (ASL). The Nicaraguan deaf community uses it and continues to					
develop as younger generations add new elements and vocabulary.					
The creation of Nicaraguan Sign Language is often cited as a powerful example of human					
linguistic ability, demonstrating how language can (10) develop in a community given the right social conditions.					
Social Collabolis.					
Q1. Fill in the blanks with the most appropriate word from each option. Write the letter (A, B, C, or D)					
corresponding to your choice on the answer sheet.					
(1) A. epidemics, B. opportunities, C. prosperities, D. coincidences					
(1/11. epidemics, B. opportumities, C. prosperities, B. comeracines					
(2) A. incentive, B. permanent, C. rudimentary, D. inevitable					
(3) A. implemented, B. summoned, C. impeached, D. surrendered					
(4) A. feebly, B. multiply, C. firmly, D. merely					
(1) 11. leesiy, B. meterpiy, C. miniy, B. merery					
(5) A. endorsed, B. engaged, C. enhanced, D. emerged					
(6) A. sophisticated, B. reminiscent, C. primitive, D. nostalgic					
(7) A. stereotype, B. evolution, C. deficiency, D. mortality					
(8) A. extensively, B. shallowly, C. deliberately, D. desperately					
(9) A. universal, B. obligatory, C. consistent, D. inaccurate					
(c) 12. am. oroai, D. oongaoorj, O. oongroom, D. macoarato					
(10) A. approximately, B. irresponsibly, C. unexpectedly, D. spontaneously					

Q2. In the following True—False statements, choose the correct answer from the passage. Write the letter (A or B) corresponding to your choice on the answer sheet.

- (11) Prior to the 1970s, communication methods of deaf people in Nicaragua had developed within the deaf schools.
 - (A) True (B) False
- (12) The Sandinista government in Nicaragua, which came to power in 1979, established an education program for language teachers in Manuagua.
 - (A) True (B) False
- (13) Judy Kegl and Ann Senghas found that young signers were responsible for much of the language's complexity.
 - (A) True (B) False
- (14) Current ISN is a fully developed sign language with its grammar and is similar to other signs such as American Sign Language (ASL).
 - (A) True (B) False
- (15) By learning the example of Nicaraguan Sign Language, we can learn how human languages came into being.
 - (A) True (B) False
- III. Describe a place you have visited that left a lasting impression on you. Explain what made this place special and how it impacted you. Use specific details to support your response. (90-100 words in English)
- IV. Read the following article and answer the questions.

One of the great things about Christmas is that nobody wants to consult an economist over the season. Unlike those who staff the health and caring services or the emergency services such as the ESB, the world gets on fine for a fortnight on economic autopilot.

However, this hasn't stopped some researchers from dabbling in the economics of Christmas. A 1993 study in the American Economic Review was based on asking a small number of economics students to estimate the cost of the Christmas presents they received and compare it to what they would have paid for the same items. Rather like Raymond Brigg's grumpy Father Christmas, who complained about "horrible socks from cousin Violet," some of these young dismal scientists did not hugely value what they had received and, on average, would have valued their presents below what the giver had paid. The more significant the age gap between the donor and the recipient, the more significant the gap in value or "economic inefficiency" involved.

Based on this small and rather unusual survey, the author concluded that there was what economists termed a massive "deadweight" involved in Christmas present-giving, measured as the difference between the cost of presents and the value of presents to the recipient. With total sales of presents in the US in the early 1990s of \$40 billion, the author estimated that Christmas presents involved an economic loss to society of more than €4 billion.

The paper concluded that everyone would be much better off if people just gave money instead of presents. Perhaps so, but I feel the paper really missed the point about giving and receiving presents.

If the metric of commercial value were appropriate to measuring the welfare effects of giving Christmas presents. Santa Claus would be a loser. The element of surprise and the appreciation shown for what may be small items in a Christmas stocking suggests that children (and adults) have

a different point of view. Some of the most appreciated gifts will have little or no monetary value. Present giving has other useful advantages. Children, at a reasonably early age, learn diplomatic skills. Instead of acting like Briggs's grumpy Father Christmas, they develop the important art of expressing appreciation for a well-meant, even if poorly targeted gesture – a lesson that has lasting value.

出典表記:The economics of Christmas: Why Santa Claus could be on to a loser by John FitzGerald, The Irish Times, December 23, 2016

(1) Translate the underlying part in Japanese.

(2)この説明文を180-200字の日本語(横書き)に要約しなさい。

句読点の正しい使用も評価に含める。ひらがなやカタカナのみの解答、および数字やアルファベットで文字数を必要以上に増やした場合、減点の対象となる。